

新型コロナウイルス感染症パンデミックの 幼児への健康社会学上の影響 ～保護者から保育所への連絡に基づく検証から～

渡部 かなえ

要旨

コロナ・パンデミックは保育園児にも影響を及ぼした。園生活においては、公衆衛生上の影響よりも保育内容の変容による影響の方が大きかった。家庭での子どもたちは屋内遊びが多くなっていた。また、保護者からの連絡票には、コロナ前とは異なり、園でのことを子どもたちが家族に話したという記載がほとんどなかった。また、子どもの健康状態についても、コロナ前は連絡票への記載が多かったが、コロナ・パンデミック時はほとんどなく、保護者は子どもの健康状態によりいっそう神経質になっていたが、コロナと無関係な軽微なレベルであっても健康に関する記述をすると、症状がなくなっても登園を断られるのではと危惧したのではないかと推察される。コロナは、保育園児とその保護者にも、偏見や差別への恐れや懸念のような健康社会学上の負の影響を及ぼしていた。その一方で、コロナ前はあまり多くなかった「パパと遊んだ」という記述が、コロナ・パンデミック時では増えていた。テレワークの導入など就労形態の柔軟化・多様化で父親が子どもに関わる時間や機会が増えたのは、子どもにとっても父親にとっても働く母親にとっても、希少なプラスの健康社会学的な側面であった。

キーワード

新型コロナウイルス感染症, パンデミック, 保育園児, 父親

序論

2020年、日本もコロナの感染拡大（パンデミック）に巻き込まれた¹⁾。コロナ・パンデミックによる混乱と深刻な影響は子どもたちにも及び、それは就学している児童生徒だけでなく²⁾、幼児にも運動量や日常生活、発育発達や健康などに影響が表れていた^{3), 4)}。幼稚園は学校に準じて休園となったところが多かったが、保育園児の中にはコロナ・パンデミック時も保護者が仕事を休むことができないため登園していた子どもがおり、保護者も保育者も、コロナの直接の危険や影響から子どもたちを守り・見守りながら、その一方で社会の偏見や差別とも戦いながら、保育を行わざるを得なかった⁵⁾。

本研究は、コロナ・パンデミック時に登園していた保育園児の家庭での様子を保護者が保育所への連絡票に記載したコメントの質的分析を行い、その結果とコロナ前の同年齢の子どものものの分析結果とを比較して、コロナ・パンデミックが園児の家庭での生活に及ぼした健康社会学上の影響について検証することを目的として行った。

方法

神奈川大学と産官学連携研究事業を行っている保育所に通っている2歳児の、保護者と保育士が毎日やりとりをしている連絡票（日めくり形式）の、保護者が子どもの家庭での活動や様子についてコメントした部分（テキスト・データ）の、2020年4月～6月の3か月分について、KH Coder⁶⁾を用いて質的分析を行った。当該園では、0～2歳児の保護者は子どもの家庭での生活や健康状態、園に伝えたいことを、保育士は園での子どもの様子や健康に関して保護者に伝えるべきことを連絡票に記載して、家庭と園で情報を共有している。連絡票の原本は保護者に返却されるが、写しは長期に渡って園に保存されている。本研究は、2020年4月～6月に登園していた2歳の園児3名の記録を分析対象とした（当該期間に数週間にわたって長期欠席（自宅待機）していた子どもたちは記録が無いため、調査対象にはならなかった）。また、比較のためにコロナの影響が全く発生していなかった2018年の4月～6月の、当時2歳だった（2020年にも同保育所に在園していた：2歳児当時の記録が園に保管されている）3名の当時の記録（家庭での様子について保護者が連絡票に記載したコメント部分：テキスト・データ）の分析を行った。

結果

1. コロナ前

図1は、コロナ前（コロナ・パンデミックの影響が生じていない時）の、2歳児の家庭での生活や行動についての保護者のコメント記録（テキスト・データ）の質的分析（共起ネットワーク分析）の結果である。

2歳児は言葉がどんどん増える時期で、子どもたちは保育園（保育所を保護者の多くは保育園と記載）でお友達やと先生（保育士を保護者の多くは先生と表記）とたくさん遊んで楽しかったことや、給食をみんなで美味しく楽しく食べたこと、0～1歳の赤ちゃんの時にはなかった園での「仕事」（お当番制で、朝や帰りのご挨拶をクラスみんなの前に出て先導したり、給食の時に布巾をテーブルに用意するなど）を張り切ってやったことなど、保護者に家庭で話していた。また、入園当時は登園のたびに泣いていたけれど、土曜日の登園も楽しく過ごせるようになったなど、子どもたちは園での生活を元気に楽しく過ごしていた。

また平日に園でみんなで行く公園にお休みの日にも行って遊んでいた。パパと一緒に遊んでくれることもあるようだったが、あまり多くはなかった。

なお、この時期の子どもは耳鼻咽喉科系の疾患への罹患や急な発熱、お腹を壊すことがよくあるが、保護者は、子どもの鼻水や発熱を心配しており、病院に行ったり服薬したことを園にも報告していた。そして、体調不良だと機嫌が悪くなるので、病気の症状だけでなく、子どもの機嫌を含めた全体的な様子を気にかけていた。また、朝ちゃんと起きられたか、夜もちゃんと寝られたかという規則正しい生活習慣にも留意していた。

子どもの育ちについて、「ありがとう」を言えるようになったことや、トイレット・トレーニングの経過などが報告されていた。

2. コロナ・パンデミック時

図2は、コロナ禍の2歳児の家庭での生活や行動についての保護者のコメント記録（テキスト・データ）の質的分析結果である。

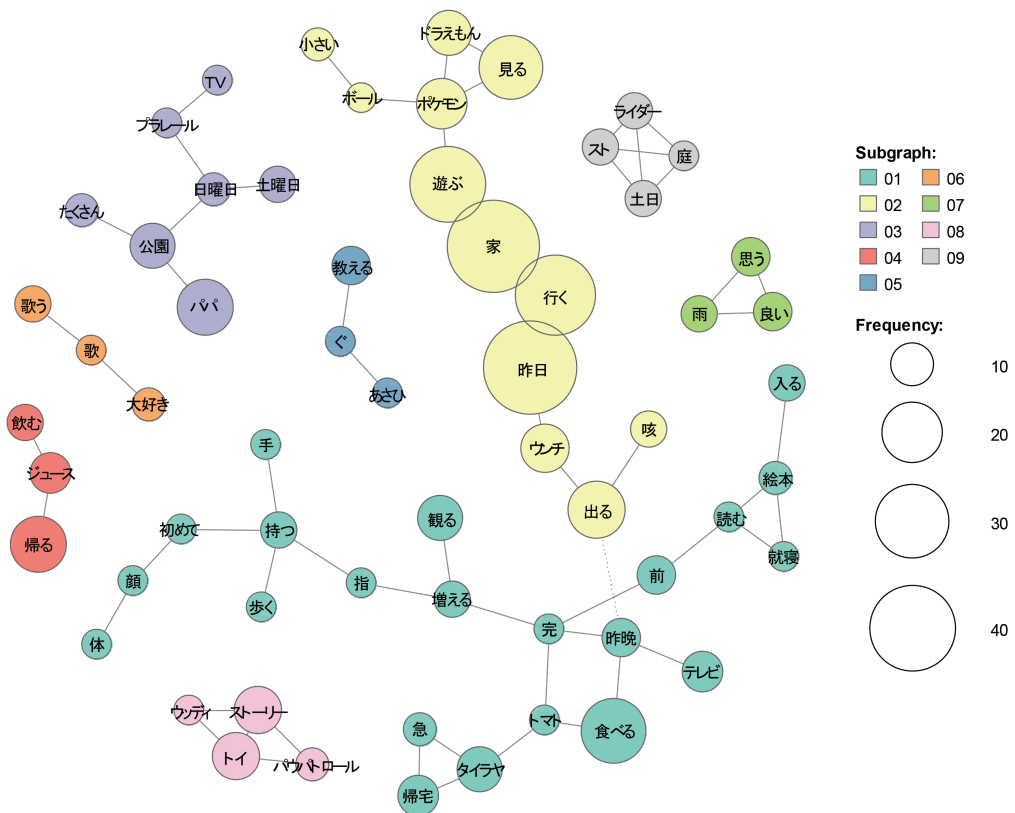


図2：2020年コロナ・パンデミック時の、園児の家庭での様子

取り学習については逆に歓迎している保護者も少なくなかった⁸⁾。

家庭でも、子どもたちは、絵本を読んだり、人気のキャラクターのおもちゃで遊んだり、テレビを見たりして過ごすことが多くなっていた。また、保護者からの連絡票には、園でのことを子どもたちが家族に話したという記載がほとんどなかった。コロナ・パンデミック時は登園しなかった子どもも多いので、登園していた少数の子どもたちは、仲の良いお友達にも会えず、元気に遊ぶこともできなくて、各自で学習ドリルに取り組むなどの個別活動が多い、ちょっと寂しい園生活だったので、子どもが園でのことをあまり家庭で保護者に話さなかった可能性もある。

また、子どもの健康状態についても、コロナ前は連絡票への記載が多かったが、コロナ・パンデミック時はほとんどなかった。コロナ・パンデミック時には、保護者は子どもの健康状態によりいっそう神経質になっていたと思われるが、コロナではない軽微な鼻水レベルであっても健康に関する記載がなかったのは、そのようなことを書くと、症状がなくなっても（鼻水が出なくなっても）当面は登園を断られるのではと保護者が危惧したのではないかと推察される。コロナは、人の身体の健康だけでなく、差別や偏見など人の心や社会の健全さにも深刻な影響を及ぼしたが、園児などの幼児とその保護者にも、偏見や差別への恐れや懸念のような健康社会学上の負の影響を及ぼしていた⁹⁾可能性が示唆された。

その一方で、コロナ前はあまり多くなかった「パパと遊んだ」という記述が、コロナ・パンデミック時では増えていた。両親ともに休めない仕事に就いている子どもが多かったが、それでもコロナ禍で在宅勤務が部分的に可能になったり、土日は休めることが増えて、父親が子どもに関わる時間や機会が増

えたのは、子どもにとっても父親にとっても、そしてそれまで育児の負担が過重になりがちだった働く母親にとっても、希少な「よかったこと」であろう。

新型コロナウイルス感染症パンデミックは幼児に様々な健康社会学上の影響をおよぼした。その多くは、感染予防・感染拡大防止のため、幼児期に育むことが重要な「非認知スキル」を育てる子どもたちの自由な遊びや活動が制限されたり、室内での静的・受動的な遊びが増えて、元気に体を動かして遊ぶ機会が減ったこと、それによって体力・運動能力の発育発達が阻害されてしまったことなど、マイナス面が圧倒的に多い。

しかし、テレワークの導入など就労形態の柔軟化・多様化で父親が子どもと過ごす時間・遊ぶ時間が増えたのは、ほぼ唯一だがプラスの側面であった。

謝辞

この研究はJSPS 科研費 23K02319 の助成を受けてまとめることができました。協力してくださったヒューマンスターチャイルド・白楽ナーサリー、藤井敬子氏（2018年当時、神奈川大学）、墨田雪香氏（神奈川大学）に感謝いたします。

参考文献

- 1) 内閣府, 世界経済の潮流 2020年I, 第1章 新型コロナウイルス感染症下の世界経済, 第1節 新型コロナウイルス感染症拡大と政策対応, 1 概観 (感染の発生及び拡大), https://www5.cao.go.jp/jj/sekai_chouryuu/sh20-01/s1_20_1_1.html
- 2) 文部科学省, 新型コロナウイルス感染症対策のための小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について (通知) https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf
- 3) Koryu Sato, Taiyo Fukai, Keiko K. Fujisawa, Makiko Nakamuro (2023). Association Between the COVID-19 Pandemic and Early Childhood Development. *JAMA Pediatrics*, 177 (9), 930-938.
- 4) 内閣官房 内閣感染症危機管理統括庁, 新型コロナウイルスによるパンデミックが乳幼児・児童に与えた影響, 2024年1月25日 (2025年11月10日: 閲覧), https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/taisakusuisin/dai9_2024/gijisidai_7.pdf
- 5) 毎日新聞, 感染しない職員の子どもの登園・登校拒否 東京・足立区の病院集団感染 区の連絡で受け入れ, 2020年9月26日, (2025年11月10日: 閲覧), <https://mainichi.jp/articles/20200926/k00/00m/040/141000c>
- 6) KH Corder: 計量テキスト分析・テキストマイニングのための, <https://kncoder.net/>
- 7) 総務省, 情報通信白書 令和2年版 テレワークの推進, 第1部 第2章 第3節 新型コロナウイルス感染症が社会にもたらす影響, (2025年11月10日: 閲覧) <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd123210.html>
- 8) 渡部かなえ, 人文研究 No. 216, 新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる園児の生活・行動の変容～保育現場での観察記録に基づく検証～
- 9) 読売新聞オンライン, コロナ不安が生む 差別や偏見, 2021年1月23日, (2025年11月10日: 閲覧), <https://www.yomiuri.co.jp/bosai-nippon/feature/1560>

The health-sociological impact of the COVID-19 pandemic on early childhood

～Inspection based on contacts from parents to the nursery～

WATANABE Kanae

Abstract

The COVID-19 pandemic has also affected nursery school children, but the impact on their lives at the nursery has been greater due to changes in the content of childcare than on public health. At home, those children were playing indoors more often. Furthermore, unlike before COVID-19 pandemic, parent contact forms to the nursery rarely mentioned that children had spoken to their families about what happened at nursery school. Furthermore, while parents frequently mentioned their children's health status in the contact forms before COVID-19, this rarely happened during the COVID-19 pandemic. Parents were increasingly concerned about their children's health, possibly due to fears that even minor health issues unrelated to COVID-19 might result in their children being refused attendance, even if the symptoms disappeared. COVID-19 also had negative health sociological effects on nursery school children and their parents, such as fears and concerns about prejudice and discrimination. Meanwhile, statements such as "playing with dad," which were not common before COVID-19, increased during the COVID-19 pandemic. The introduction of telework and other flexible and diversified working arrangements has increased the time and opportunities fathers must spend with their children, which is a rare positive health sociological aspect for nursery school children, fathers, and working mothers.

Key Words

COVID-19, pandemic, nursery school children, father